

森林整備保全事業 ICT活用工事（小規模土工） 試行積算要領

第1 適用範囲

本資料は、バックホウを用いて行う下記のいずれかに該当する小規模な土工に適用する。

- ・ 1箇所当たりの施工土量が100m³程度までの掘削、積込み及びそれらに伴う運搬作業
- ・ 1箇所当たりの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘り及びそれに伴う埋戻し、舗装版破碎積込（舗装厚5cm以内）、運搬作業

また、適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、礫質土）とする。

なお、「1箇所当たり」とは、目的物（構造物・掘削等）1箇所当たりのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

第2 機械経費

1 機械経費

小規模土工（ICT）の積算で使用するICT建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。

なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、「森林整備保全事業設計積算要領等の細部取扱い」により算定するものとする。

- ・ 小規模土工（ICT）

作業の種類	作業の内容	機 械 名	規 格	摘 要
掘削積込 積込み	標準	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	
	上記以外	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	
舗装版破 碎積込	—	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	
床掘り	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・排出ガス 対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	
埋戻し	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・排出ガス 対策型(第2次基準値)	はねつけ

			山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	
		タンバ及びランマ	質量 60～80kg	締固め
運搬	-	ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4t 積級	バックホウ山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) の場合
		ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 2t 積級	バックホウ山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³) の場合

(注) 作業の内容における上記以外とは、構造物及び構造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当たりの施工土量が50m³以下の箇所とする。

2 ICT建設機械経費加算額

(1) 損料加算額

ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、第2の1機械経費のうち損料にて計上するICT建設機械に適用する。なお、加算額は、以下のとおりとする。

・小規模土工 (ICT)

対象建設機械：バックホウ

損料加算額：5,470円/日

3 その他

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

(1) 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

・小規模土工 (ICT)

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05 (\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量 (m}^3\text{)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m}^3\text{/日)}}$$

(2) システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

・小規模土工 (ICT)

対象建設機械：バックホウ

費用：ICT建設機械経費損料加算額に含む。

第3 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、見積り等を活用し必要額を適正に積み上げるものとする。

第4 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用及び外注経費等の費用

3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品等を行う場合における経費は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、見積り等を活用し必要額を適正に積み上げるものとする。

なお、次の①から⑥による出来形管理又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理に準じた出来形計測を行う場合の経費であり、それ以外の森林整備保全事業ICT活用工事（小規模土工）試行実施要領に示された出来形管理の経費は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

- ①モバイル端末を用いた出来形管理
- ②空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理
- ③地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ④無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ⑤地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- ⑥上記①～⑤に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

附 則

この要領は、令和5年4月1日から施行する。

この要領は、令和5年5月1日から施行する。

この要領は、令和6年7月1日から施行する。

【参考】

1 各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 1.1 機種を選定

作業の種類	作業の内容	機 械 名	規 格	摘 要
掘削積込 積込み	標準	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	
	上記以外	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	
舗装版破碎 積込	—	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	
床掘り	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	
埋戻し	—	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	はねつけ
		タンパ及びランマ	質量 60～80kg	締固め
運 搬	—	ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4t 積級	バックホウ山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) の場合
		ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 2t 積級	バックホウ山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³) の場合

(注) 作業の内容における上記以外とは、構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当たりの施工土量が 50m³ 以下の箇所とする。

2 掘削積込作業及び積込作業

(1) 日当たり施工量

バックホウによる掘削積込及び積込作業の日当たり施工量は、次表を標準とする。

表 2.1 日当たり施工量

(1日当たり)

作業の内容	名 称	規 格	単 位	地山の掘削 積込	ルーズな状 態の積込み
標準	バックホウ (クローラ 型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	m ³	40	45
上記以外	バックホウ (クローラ 型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	〃	16	23

3 舗装版破碎積込作業

(1) 日当たり施工量

舗装版破碎積込作業の日当たり施工量は、次表を標準とする。

表 3.1 日当たり施工量

(1日当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	m ²	23

4 床掘作業

(1) 日当たり施工量

バックホウによる床掘作業の日当たり施工量は、次表を標準とする。

表 4.1 日当たり施工量

(1日当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・排出ガス対策 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	m ³	34

(2) 補助労務

床掘作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表 4.2 床掘補助労務

(10m³ 当たり)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.3	基面整正及び浮き石除去含む

5 埋戻作業

(1) 適用範囲

機械による埋戻し（敷均し含む）及び締固めの一連作業に適用する。

(2) 日当たり施工量

バックホウによる埋戻作業の日当たり施工量は、次表を標準とする。

表 5.1 日当たり施工量

(1日 当たり)

名称	規格	単位	数量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・排出ガス対策 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	m ³	40
タンパ運転	質量 60~80kg	〃	36

(注) 上表には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれる。

(3) 補助労務

埋戻作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表 5.2 埋戻作業補助労務

(10m³ 当たり)

名称	単位	数量	摘要
普通作業員	人	0.8	敷均し及びタンパ締固め補助

(注) 上表には、はねつけ～締固めまでの作業が含まれる。

6 運搬作業

(1) 施工歩掛

運搬作業の施工歩掛は、次表を標準とする。

表 6.1 ダンプトラック運搬日数（土砂）

(10m³ 当たり)

積込機種・規格	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ） バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）													
運搬機種・規格	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕4t 積級													
DID 区間：無し														
運搬距離 (km)	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	10.0 以下	13.0 以下	19.0 以下	35.0 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.2	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5	0.55	0.6	0.8	0.9	1.1	1.5	2.3
DID 区間：有り														
運搬距離 (km)	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	27.0 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.2	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5	0.55	0.6	0.8	0.9	1.1	1.5	2.3

表 6.2 ダンプトラック運搬日数（土砂）

(10m³ 当たり)

積込機種・規格	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.13m ³ （平積 0.1m ³ ）													
運搬機種・規格	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t 積級													
DID 区間：無し														
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	28.5 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.3	1.5	1.8	2.3	3.0	4.5

DID 区間：有り														
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下	5.0 以下	6.5 以下	8.0 以下	11.0 以下	15.0 以下	24.0 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.45	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.3	1.5	1.8	2.3	3.0	4.5

- (注) 1. 上表は地山 10m³ の土量を運搬する日数である。
 2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
 3. 自動車専用道路を利用する場合には、別途計上する。
 4. DID (人口集中地区) は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
 5. 運搬距離が 60km を超える場合は、別途考慮する。

(2) 補正係数 (K)

舗装版破碎積込作業歩掛に対する適用土質 (アスファルト塊) による補正は、次式により行うものとし、補正係数 (K) の値は次表とする。

$$10\text{m}^3 \text{ 当たり運搬日数} = \text{土砂の } 10\text{m}^3 \text{ 当たり運搬日数} \times (1 + K)$$

表 6.3 補正係数 (K)

補正係数	+0.30
------	-------

7 単価表

(1) バックホウ掘削積込 10m³ 当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) 又は山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	日	10/D	表 2.1 機械損料
計				

(注) D: 日当たり施工量

(2) バックホウ積込10m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) 又は山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	日	10/D	表 2.1 機械損料
計				

(注) D：日当たり施工量

(3) バックホウ舗装版破碎積込10m²当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	日	10/D	表 3.1 機械損料
計				

(注) D：日当たり施工量

(4) バックホウ床掘10m³当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 4.2
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	10/D	表 4.1 機械損料
計				

(注) D：日当たり施工量

(5) バックホウ埋戻し 10 m³ 当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表 5.2
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	日	10/D	表 5.1 機械損料
タンパ運転	質量 60~80kg	〃	10/D	〃
計				

(注) D：日当たり施工量

(6) ダンプトラック運搬 10 m³ 当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
ダンプトラック 運転	オンロード・ディーゼル 4t 積級又は 2t 積級	日		表 6.1~表 6.3 機械損料
計				

(7) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	7 単価表 (8)	運転労務数量→1.00 燃料消費量→40 機械損料数量→1.59
〃	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→24 機械損料数量→1.33
〃	後方超小旋回型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→40 機械損料数量→1.59
ダンプトラック	オンロード・ディーゼル 4t 積級	7 単価表 (9)	運転労務数量→1.00 燃料消費量→34 機械損料数量→1.18
〃	オンロード・ディーゼル 2t 積級	〃	運転労務数量→1.00 燃料消費量→23 機械損料数量→1.17

タンパ及びランマ	質量 60~80kg	7 単価表 (10)	運転労務数量→1.00 燃料消費量→6 機械損料数量→1.64 主燃料→ガソリン
----------	------------	---------------	---

(8) 運転1日当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運転手 (特殊)		人		
燃 料 費		リットル		
機 械 損 料		供用日		
ICT 建設機械経費 加 算 額		〃		
計				

(9) 運転1日当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運転手 (一般)		人		
燃 料 費		リットル		
機 械 損 料		供用日		
損 耗 費		〃		
計				

(10) 運転1日当たり単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特殊作業員		人		
燃 料 費		リットル		
機 械 損 料		供用日		
計				